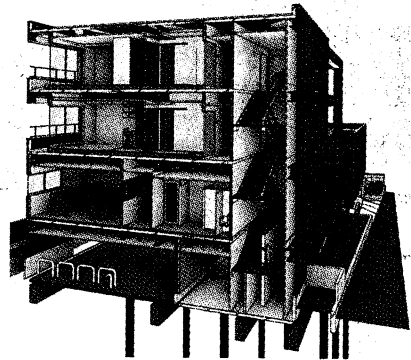


「はじめの一步を踏み出した」と、JFEシビルでBIM推進部長を兼務する建築事業部副事業部長の長田肇氏は、神奈川県藤沢市で施工中の学習塾・共同住宅プロジェクトを、そう表現する。同社にとってBIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)を導入した初の試み。このプロジェクトを足が

BIM導入へ はじめの一步



初導入した学習塾・共同住宅プロジェクトのBIMモデル

りに「導入数を着実に増やしていきたい」としっかりと先を見据えている。



同社がBIMを手掛けるきっかけとなったのは3年前。ある物流倉庫プロジェクトの受注に際し、施主が完成後の維持管理にBIMデータを活

用する計画だったために提出を求められた。「結局、提出の実現はしなかったが、それを契機にプレゼンテーションツールとしてのBIMの使い方が始まった」と明かす。社を挙げてBIM活用を舵を切ったのは16年に入ってからだ。1月に建築事業部とシステム建築事業部の横断組織として、10人体制のBIM推進部を発足した。技術者不足を補うため、フィリピン現地法人リオフィール

初導入したのは学習塾ステップが建設するS造4階建て延べ995平方メートルの複合施設。物流倉庫を強みに活動する同社では、規模が手頃で仕上げも含めてBIMをトータルで検証できる一般建築案件の洗い出しを進めていた。推進部の小池傑主任は「初めて実施設計まで含めて対応したが、BIMを使わなかったら、もっと時間がかかっていたのかもしれない」と振り返る。

敷地は1畝を超える高低差がある上、建築面積を最大限に活用したことから、プランの位置確認などが厳密にできたBIMの効果は大きかった。設計図面の整合性確認にも効果的で、15年4月入社で推進部の一員になった井崎梨那さんも「初めてだった建具表作成も無事にこなすことができた。次のプロジェクトにはもっと効率的にできよう」と手応えを口にす

3件でトータル検証

JFEシビル

推進部の(左から)井崎さん、小池さん、長田さん、オカンボさん、サルピオさん

社に14年6月に入社した女性技術者のエイプリル・エム・オカンボさんと、15年9月入社のパブシャー・エール・サルピオさんのフィリピン人エンジニア2人も招き入れた。

同社は2016年度内に計3件のBIMプロジェクトを手掛け、5年かけ設計部門に全面導入する青写真を描く。3次元のモデリングは内製化を前提に推進する方針だ。長田氏は「今後は業務効率をいかに上げていくか。まだ従来の2次元設計の方が早いですが、それを少しでも縮め、組織としての競争力につなげる」とがわれわれ推進部の役割でもある」と確信している。

